

1. シンポジウム企画委員会のシンポジウム(1963.10～2016.3)

開催年月	開催場所	通し番号	シンポジウム企画名
1963.10	小樽市	1	漁業資源研究の現状と問題点
		2	浅海増殖研究の現状と問題点
		3	魚肉冷凍中における肉質の変化
1964.04	東水大	4	水産脂質の代謝
		5	親魚の育成
		6	海洋における光学的現象と漁業
10	水大校	7	食品添加物と水産加工
		8	養魚施設
1965.04	東水大	9	漁業資源における再生産機構
		10	農薬と水産業
10	東海大	11	音響利用漁業に関するシンポジウム
		12	水産動物筋肉におけるリン酸代謝に関する諸問題
		13	水産生物の育種に関するシンポジウム
1966.04	東水大	14	マグロ漁業に関するシンポジウム
		15	組織学的に見た水産食品
10	瀬戸内海	16	養殖と餌料に関するシンポジウム
		17	魚類の感覚とその水産への応用
1967.04	東水大	18	人工魚礁とその効果に関するシンポジウム
		19	魚類色素と応用上の諸問題
11	近畿大	20	魚類の細菌性疾病
		21	魚介類の鮮度判定法の展望と問題点
		22	海洋微生物
1968.04	日大農獣	23	水産増殖におけるビタミン利用
		24	タイ類の増養殖
		25	食品の香味
1969.04	東京家政	26	魚介類の低温保蔵と微生物
		27	魚類の健康診断技法
10	東北大農	28	魚類の成長
		29	魚類の消化酵素
1970.04	東海区水	30	水産脂質の酸化
		31	水中動物の生理生態に関する無線測定法
10	三重大水	32	定置網漁業に関する研究の現状と問題点
		33	魚肉たん白質の研究・実験法
1971.04	東水大	34	水産物のエキス
		35	硬組織とその年令査定形質の形成機構
10	北大水	36	スケイトウタラの漁業とその資源
		37	冷凍すり身における魚肉筋タンパクの挙動
1972.04	日大農獣	38	火光利用の漁業
		39	水産食品の食中毒汚染
10	高知大文	40	魚類の栄養
		41	甲殻類の増養殖、とくに養成に関する諸問題
		42	水圏の富栄養化と水産増養殖
1973.04	東水大	43	のりの病気
		44	水産食品と水分
		45	公害問題と水産研究
10	鹿大教養	46	対馬暖流域の海洋構造とその漁業
		47	重要魚種の利用とその品質規定
1974.04	東水大	48	種苗生産における親魚と産卵に関する諸問題
		49	魚類寄生アニサキス幼虫
11	京都商工	50	魚類の種族判別への生化学的手法の応用
		51	稚魚の摂餌と発育
		52	海面埋め立ての沿岸環境および漁業生産への影響
1975.04	東水大	53	南方カツオ漁業に関する諸問題
		54	海洋環境における微生物の生態
		55	重金属・農薬汚染の水産への影響
10	長大水	56	肉の特性から見た白身の魚と赤身の魚
		57	種苗放流効果と放流漁場の諸問題
1976.04	日大農獣	58	水産資源の有効利用について
		59	水産動物ホルモン
		60	石油汚染とその水産生物への影響
10	水大校	61	生態学における測定
		62	PCBと海洋生物
1977.04	東水大	63	イワシ・アジ・サバまき網漁業に関する諸問題
		64	水産動物肉のタンパク質
		65	浅海養殖場の自家汚染の問題とその対策－漁場老化の機構を中心として－
10	東北大農	66	増殖技術の科学的基礎及び理論
		67	魚類の脂質要求と餌料への油脂
1978.04	東水大	68	養魚における呼吸と循環の諸問題
		69	水産動物のカロチノイド
10	東海大海	70	水族の遺伝・育種の現状と将来
		71	海洋生化学資源の開発
1979.04	東水大	72	漁具の選択作用
		73	水産食品の鑑定
10	北大水	74	水域の浄化に関する諸問題
		75	浅海増養殖漁業生産の体系化－ホタテガイをモデルとして－
1980.04	日大農獣	76	淡水養魚における用水の有効利用
		77	水産加工食品の保全に関する諸問題
		78	赤潮の発生機構と対策

	10	九大農	79	新しい生活環境づくり藻場・海中林
			80	多獲性赤身魚の有効利用
1981.04		東水大	81	かご漁業に関する諸問題
	10	三重大水	82	魚類の化学感覚と摂餌促進物質
			83	活魚輸送の現状と諸問題
1982.04		東水大	84	海洋動物の非グリセリド脂質—スクアレン、グリセリルエーテル、ワックスを中心として—
			85	水産動物における成熟・産卵の制御
			86	有毒・有害プランクトンの作用と化学的研究の現状
	10	広大生物	87	水圏の富栄養化と生物指標
			88	シオミズツボワムシの大量培養
1983.04		東水大	89	海藻の生化学と利用
			90	資源の解析・評価の方法の現状と問題点
			91	魚類の物質代謝
	10	京大会館	92	漁業環境アセスメント
			93	資源生物としてのサメ・エイ類
1984.04		日大農獣	94	魚肉ねり製品に関する研究と技術
			95	水域別漁業環境問題とその対策
			96	人工魚礁の諸問題
	10	東北大農	97	水産物と栄養
			98	魚類の栄養と餌料
1985.04		東水大	99	秋サケの資源と利用
			100	貝類毒化原因プランクトンの生物学と生態学
			101	水産動物の筋肉脂質
	10	鹿大水	102	環境汚染物質の沿岸生態系への影響
			103	マダイの資源培養技術
1986.04		東水大	104	魚類の品質判定と貯蔵法の進歩
			105	水産増殖と微生物
			106	魚のスーパーテリング—その理論と実際—
	10	高知大文	107	漁業から見た閉鎖性海域の窒素・リン規制
			108	解散付着生物と水産増殖
1987.04		東水大	109	海産有用生理活性物質
			110	資源評価のための数値解析
			111	水産食品のテクスチャー
	10	北大水	112	下水処理水の漁業環境への影響
			113	水産動物の日周活動
1988.04		日大農獣	114	フグ毒研究の最近の進歩
			115	エビ・カニ類の種苗生産
	10	東海大海	116	魚介類のエキス成分
			117	漁具に対する魚群行動の研究手法の現状と問題点
1989.04		東水大	118	水産物において
			119	魚介の生息環境と着臭
			120	水産増殖と染色体操作
	10	宮崎大農	121	水産動物の筋肉及び構成タンパク質の比較生化学
			122	養殖魚の価格と品質の維持
1990.04		東水大	123	海洋微生物の生産する生理活性物質の基礎と応用
			124	テレメトリー利用による水棲動物の行動解析
	11	近大農	125	魚肉の栄養成分とその利用
			126	魚類の初期発育過程
1991.04		東水大	127	貯蔵及び加工における魚肉タンパク質の変性と制御
			128	海産魚の成熟・産卵リズム
	10	北里大水	129	魚類における死後硬直の生化学と応用上の諸問題
			130	食用藻類の栽培技術と進歩
1992.04		日大農獣	131	海洋生理活性物質研究の基盤技術
			132	東南アジアにおける養殖の現状と将来展望
	10	水大校	133	微細藻類の多目的利用の現状と将来展望
			134	放流魚の健苗性とその育成技術
1993.04		東水大	135	海洋生物カロテノイドの代謝と生物活性
			136	水産脂質の特性と生物活性
	10	長崎大	137	水産資源解析の課題と展望—統計モデルと資源特性値の推定—
			138	赤潮藻の微生物学的防除
1994.04		東水大	139	魚類の初期減耗研究の課題と方法
			140	養魚餌料用代替タンパク質利用の現状と課題
			141	水産資源の音響調査手法の現状と展望
	10	三重大生	142	魚介類に対する摂餌刺激物質
			143	水産増殖における生態防御機構研究の現状と将来
1995.04		東水大	144	有用海産魚介類の種苗生産技術の展開
			145	わが国の漁業における混獲の実態とその対策
	9	京大総合	146	魚介類の鮮度判定と品質保持
			147	ウナギの初期発生活史と種苗清算の展望
1996.04		日大生資	148	魚類の行動生理学と漁獲技術
			149	イルカ類の感覚と行動
	10	九大法文	150	種苗放流をめぐる諸問題
			151	トラフグの漁業と資源管理
1997.04		東水大	152	ヒラメの生物学—その基礎と応用—
			153	有用海藻類のバイオテクノロジー
			154	沿岸生態系における漁業生産システムの解析
			155	魚介類の細胞外マトリックス
	9	広大総合	156	水産動物の成長解析
			157	砂浜海岸における仔稚魚の生物学
1998.04		東水大	158	水棲動物の呼吸と環境
			159	アオサ類の繁殖生態と環境修復への利用
			160	マイワシの資源変動と生態変化

		161	水産生物の形質発現と形質評価
		162	資源・漁業の管理技術の現状と課題
9	北大水	163	磯焼け現象:その機構と藻場修復
		164	イカ漁業の現状と将来展望
1999.04	東水大	165	アマノリ研究の現状
		166	漁業と資源の情報学
		167	東シナ海及び黄海の生物資源:現状と有効利用の展望
		168	魚介類筋肉タンパク質の構造と機能
9	東北大農	169	水産物健康性機能とその利用
		170	国連海洋法下における水産資源の直接推定法の意義と課題
		171	魚類の配偶子形成における内分泌機構
2000.04	東水大	172	漁具の選択特性の評価と資源管理
		173	ホンダワラ類の繁殖・生態と藻場造成技術
		174	魚類の自発摂餌—その基礎と応用—
		175	HACCPと水産物
9	福井県大	176	マアナゴの資源生態と漁業
		177	選択的漁獲技術開発のための漁獲過程に関する研究の課題と今後の展望
		178	スズキをモデルとした水産資源生物の新展開
2001.04	日大生資	179	二酸化炭素の海洋隔離技術と生物への影響
		180	魚肉のゲル形成における構成タンパク質の役割
		181	オゴノリの研究の現状と新資源としての展望
		182	漁船工学の現状と展望
2002.04	近大農	183	魚類の免疫系
		184	サバ型魚類の資源・増殖生物学
		185	水産生物の性発現と行動生態
		186	海藻食品の品質保持と加工・流通に関する課題
2003.04	東水大	187	東シナ海におけるマアジの産卵場形成と沿岸への加入機構
		188	養殖魚の健全性に及ぼす微量栄養素
		189	地域特産資源としてのエビ・カニ類の多様性と重要性
2004.04	鹿大郡元	190	ベントス研究の漁業生物学的研究
		191	水産物の品質・鮮度とその高度保持機構
		192	水産機能性脂質—給源・機能・利用
2005.04	海洋大	193	魚肉のゲル形成に伴う水の存在状態と物性の変化
		194	レジームシフトと水産資源
		195	ブリー—その資源・生産・消費
		196	クラゲ類の大量発生とそれらを巡る生態学・生化学・利用学
		197	近縁魚介藻類の種判別および漁獲地域判別技術
2006.04	高知大朝倉	198	海洋深層水の特性と利用
		199	水生動物の行動と漁具の運動解析におけるテレメトリー手法の現状と展開
		200	音響資源調査の新技术—計量ソナー研究の現状と展望—
		201	モデル水産植物研究の現状と課題
2007.04	海洋大	202	微生物制御の最前線:食の安全から環境保全まで
		203	森、里、川と沿岸域の生物生産
		204	水圏生物の色素—嗜好性と機能性—
		205	海洋資源生物研究におけるネット採集具開発の現状と課題
2007.09	北大水	206	水産動物の生態研究における安定同位体比分析の現状と展望
		207	水産学と地域連携:道南における新海洋産業網の形成にむけて(公開シンポジウム)
		208	磯焼けの科学と修復技術(公開シンポジウム)
2008.04	東海大海	209	アサリ資源の増殖を目指した流域圏の環境管理
		210	沿岸域におけるアユの生理・生態特性の解明
		211	海洋高次捕食者の保全と持続的利用—トツダウアプローチ:マグロ類、サメ類、イルカ類を例として—
		212	漁業における灯光利用の現状と課題—灯光で魚を誘い獲る技術・制度の再構築に向けて—
2009.03	海洋大	213	急潮の発生・伝播機構と定置網の被害防除
		214	魚類の生殖機構—基礎と応用—
		215	魚介類のアレルゲン研究の最前線
		216	漁獲ストレス軽減によるマグロ高品質化
10	北里大	217	水産とIT~ITで水産を元気にする~
2010.03	日大	218	クロマグロ養殖業—技術開発と事業展開・展望—
		219	魚介類生産の場としての浅海域の生態系サービス
		220	水産資源の有効利用とゼロエミッション
		221	カワウによる漁業被害防除の開発
		222	日本産水産物の高付加価値化~サンマのグローバルマーケティングの取組みに向けて~
		223	アンチエイジングを目指した水産物の利用
		224	微生物ゲノムが拓く水産の新たな潮流
2011.03	海洋大	225	水産健康機能成分の機能解析と利用技術開発—有効利用と次なる展開—
		226	サケ輸出に求められる技術開発
		227	21世紀のSmart Fisheryを目指して
		228	水産育種の現状とゲノム情報利用の将来展望
		229	漁獲物の蓄養による品質向上技術
		230	飼育実験とバイオロギング研究—漁業資源の繁殖特性研究の新たな展開
2011.09	長崎大	228*	水産育種の現状とゲノム情報利用の将来展望
		229*	漁獲物の蓄養による品質向上技術
		231	フグ研究とトラフグ生産技術開発の最前線
		232	沿岸環境の保全と修復における微生物学的側面—有明海再生を目指して—
2012.03	海洋大	225*	水産物由来健康機能成分の機能解析と利用技術開発—有効利用と次なる展開—
		227*	21世紀のSmart Fisheryを目指して
		233	水産「プロバイオティクス」の創成
		234	通電加熱による食品の加熱と殺菌技術の高度化
		230*	漁業資源の繁殖特性研究-飼育実験とバイオロギングによる新たな展開-
2012.09	水大校	235	スケトウダラが産まれてから食卓にあがるまで:生態-社会系とその管理
		236	沿岸資源の増殖・管理と分子生物学的手法によるモニタリング
2013.03	海洋大	237	メチル水銀のリスクと魚食のベネフィット

2013.09	三重大	238	水産における光利用技術と基礎研究の動向
		239	真珠研究の最前線-真珠養殖技術の革新を目指して-
		240	アオリイカの生物学と漁業技術の進歩
2014.03	北大水	241	スサビノリの持続的生産への挑戦
		242	ハタ科魚類における繁殖の生理生態と種苗生産
2014.09	九大農	243	魚類の初期生活史研究の最前線
		244	魚類における新しいタンパク質Calycin研究の新展開: α 1-酸性糖タンパク質, フグ毒結合タンパク質, ウナギ蛍光タンパク質
2015.03	海洋大	245	魚介類内在性プロテアーゼー基礎から水産食品加工への応用までー
		246	魚類行動生理学の基礎と水産研究への応用
2015.09	東北大農	247	東日本大震災からの復興・再生に向けた新たな水産業の創成につながる新技術開発
2016.03	海洋大	248	魚類人工種苗の形態異常:これまでとこれから
		249	地下水・湧水を介した陸ー海のつながり: 沿岸域における水産資源の持続的利用と地域社会
		250	三陸沿岸における水産業の復興と新たな水産人材育成ー3大学連携三陸水産研究教育拠点形成事業の成果と今後の展望ー
		251	水産物に関わる冷凍研究の課題と展望
2016.9	近大農	252	新たな貝毒リスク管理措置の導入に向けた研究
2017.3	海洋大	253	森川里海のつながりを科学で説明できるか?
		254	福島淡水域における放射能汚染と魚類に及ぼす影響:これまでとこれから
		255	水圏生物タンパク質科学の新展開

2. シンポジウム企画委員会のミニシンポジウム(1994.4~2016.9)

開催年月	開催場所	通し番号	ミニシンポジウム企画名
1994.04	東水大	1	アカイカ流し網代替漁法の展望
		2	魚介類筋肉タンパク質の構造と機能の解析
		3	貝毒対策の問題点
		4	漁獲技術研究における国際協力の事例と将来展望
		5	ガス置換包装における水産物の品質保持
1994.10	三重大生	6	コンブ目植物の生態と増養殖技術
		7	熊野灘漁業の現状と将来
1995.04	東水大	8	国内産アワビ・トコブシの安全性
		9	水産生物におけるD型アミノ酸の分析法, 分布及び生理機能
9	京大総合	10	魚類の筋肉プロテアーゼー基礎と応用ー
		11	海洋生物の回遊環境履歴解析
		12	海洋生命科学における糖鎖生物学・工学
1996.04	日大生資	13	魚類のゲノム解析とその必要性
		14	相模湾における漁業と海域利用の将来展望
		15	フグの毒性に関する緊急課題
10	九大法文	16	魚介類の培養栽培を活用した研究
		17	魚類の聴覚特性ー内耳と側線ー
1997.09	広大総合	18	沿岸漁業における漁具の選択性Ⅰー網漁具ー
1998.04	東水大	19	沿岸漁業における漁具の選択性Ⅱー釣・陥穿漁具ー
		20	水産生物における内分泌擾乱物質
1999.04	東水大	21	薬物速度論的解析における水産物医薬品のJ体内動態ー投薬法の評価に関連してー
		22	漁具の流体力学的側面Ⅰー基礎的研究の現状と課題ー
9	東北大農	23	これからの栽培漁業研究ー今, 何が問題か?ー
2000.04	東水大	24	漁具の流体力学的側面Ⅱー応用的研究ー
		25	魚肉軟化とコラーゲン分解
		26	超小型記録装置による魚類の遊泳行動研究ー現状と展望ー
9	福井県大	27	水産ゼロエミッションの現状と課題
2001.04	日大生資	28	カタクチイワシ資源の今を考える
		29	ワムシ大量培養法の進展とその現状
2002.04	近大農	30	水生無脊椎動物をめぐる最近のトピックス
		31	マングローブ沿岸生態系における地球温暖化ガス収支
		32	フグの毒蓄積機能ーフグはなぜ毒をもつのかー
2003.04	東水大	33	海洋動物の刺毒に関する最近の知見
2004.04	鹿大郡元	34	頭足類学の胎動ー分子解析から資源変動までー
		35	干拓域の一次生産者ーその生態と機能ー
		36	水棲動物のリポタンパク質・ホスオリバーゼA2・レプテン受容体
2005.04	海洋大	37	ヒラメ・カレイの裏表ー異体類の左右性発現の機序とその異常についてー
2006.04	高知大朝倉	38	ゴーストフィッシング研究の現状と方向性
		39	クロマグロの初期発育と種苗生産ー現状と展望ー
		40	魚類の発生工学の現状と展望
2007.04	海洋大	41	海藻類の単細胞化とその産業利用
		42	水産分野における知的財産に関する問題(公開ミニシンポジウム)
2007.09	北大水	43	水産科学に携わる女性研究者の現状と展望
2008.04	東海大海	44	多獲性浮魚を対象とする漁業生産システムの再構築
		45	熱帯/亜熱帯産有毒魚類と底生性有毒微細藻に関する緊急の課題
		46	開放的な砂浜海岸における水産生物と環境ー吹上浜をモデルとした生態研究ー
		47	次世代型魚類養殖給餌システム開発の現状と展望
2009.03	海洋大	48	水産実験所から始まる新しい水産研究と教育
		49	ノリ病気研究の現状と展望
10	北里大	50	宮古湾をモデルとした資源の増殖と管理の試みー栽培漁業の基礎研究から効果の実証までー
		51	板鰯類資源の保全と管理における現状と課題
		52	アユ釣りの科学ー研究者と釣り人がアユを語るー
2010.03	日大	53	沿岸域の生物に関する予測評価
		54	深層水の新たな展開
9	京大総合	55	海洋高次捕食者と漁業との競合問題ー食害対策における情報の共有化ー
		56	瀬戸内海の栄養塩不足とその対策ー河川水利用技術の開発ー
		57	海洋動物の群れを考えるー社会性・生態・遺伝子の視座からー
		58	沿岸域における有害有毒プランクトンの発生メカニズムと予知

2011.03	海洋大	59	イカ類資源の世界的需供の変化と国内産業の展開
2011.09	長崎大	60	環東シナ海研究のこれまでとこれから 国境を越えた海洋研究ネットワークの充実に向けて
2012.03	海洋大	61	水産資源管理に向けた魚類の行動研究
2012.09	水大校	62	低魚粉飼料の栄養評価と飼育魚の健康評価
		63	養殖業の未来 ―生産から利用・流通・市場まで―
2013.03	海洋大	64	水圏におけるハイブリッドとクローン―生態系における役割と応用可能性―
		65	小型底びき網漁業における省エネ・省力化を目指した技術開発
2013.09	三重大	66	海女漁業の現状と将来展望
		67	選択漁獲は古いのか?! ― Science論文の意義を探る
		68	志摩半島周辺海域における二枚貝類養殖の現状と将来展望
2014.03	北大水	69	水産物の生産・加工・流通段階を保障するリスク管理研究の最新動向
		70	データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む～
		71	微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望
2014.09	九大農	72	頭足類学の創成 ―水産学における応用的基礎として―
		73	水産物におけるゲノム編集の現状と展望
		74	クルマエビ栽培漁業の今後を考える
2015.03	海洋大	75	若手が拓く水産学研究:国際舞台で活躍する若手研究者たち
		76	調査捕鯨と国際司法裁判所(ICJ)判決
2015.09	東北大農	77	フグ食の安全性確保―日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し
		78	水産分野のキャリア教育―高校・大学・産業界における課題と期待―
2016.03	海洋大	79	エリアケイバビリティアプローチによる漁村開発
		80	漁業資源の今とこれから
2016.09	近大農	81	水産資源の持続的利用と認証制度 ―東京オリンピックで日本の水産物を提供できるのか?―
		82	ICTの水産業への導入:最前線と今後の課題
		83	水産分野におけるタンパク質研究の現状と展望
		84	日本の野生メダカの保全と新たな課題―個体群減少と遺伝的攪乱―
		85	水産教育の現場から次世代育成を考える
2017.03	海洋大	86	水産資源データ解析と予測モデル
		87	サバ ～資源・養殖・加工・ブランド化をシームレスに繋ぐ若手研究者の集い～
		88	寄生虫症を宿主の視点から考える
		89	実験・実習再考 ― 水産化学・食品系で扱うべき内容